

AMAKURU RWANDA

青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊

ルワンダ・コミュニティ開発(水の防衛隊)



野田 恵莉



Umwaka Mushya Muhire!
(あけましておめでとうございます！)
東アフリカ、ルワンダから
ニュースレターをお届けします。

TODAY'S TOPIC

- わたしの活動
「ママの思いのつまった、野菜チャパティ」
- 任地の暮らし
「南東の国境、ルスモの滝に行ってみた」



*親子向け野菜チャパティ（薄焼きパン）づくりワークショップ。

ママの思いのつまった、野菜チャパティ

売店のママと意気投合し、野菜チャパティ試作販売の打合わせをしました。「一回の食事で十分な野菜を摂ることができない村人も多いため、100RWF(約 10 円)のチャパティを食べて、多くの栄養素が摂れるように」という彼女の思いから、“ピーツ、人参、ピーマン、さつま芋、玉ねぎ”を混ぜ込んだチャパティをつくることになりました。

結果、老若男女から大好評。ピーツの赤色が鮮やかなチャパティは、皆の興味を引き、大人から子どもまで様々な人が食べてくれるようになりました。1 日のみ販売する予定でしたが、以降、毎日野菜チャパティが作られるようになり、今ではお店の定番商品です。

数日後、コミュニティヘルスワーカーから依頼を受け、栄養に関する親子向けのワークショップを開催しました。売店のママが講師となり、バランスのよい食事について指導したうえで、野菜チャパティづくりを実演しました。

この活動を通してうれしかったことがあります。今回のワークショップ出張をきっかけに、毎日お店に張り付いていたママが、「16 年ぶりに丘を登ったわ！」といきいきとした顔で話してくれたのです。彼女の行動範囲を広げ、活躍する場をつくることができたのかなと思いました。



南東の国境、ルスモの滝に行ってみた

任地から約2時間、タンザニアのダルエスサラーム港に続く国道を南東に進むと、ルワンダとタンザニアの国境に位置する「ルスモの滝」があります。アカゲラ川から流れる赤茶色の水がゴーゴーと音を立て、大量に落ちていく姿はととても迫力があります。

現在ルスモの滝には2つの橋がありますが、2014年、日本の無償資金協力によって2本目の新たな橋が架けられました。この橋は、内陸国のルワンダとダルエスサラーム港をつなぐ物流の大動脈であり、毎日大型トラックが絶えません。

ルスモの滝を訪れた際、任地の村人が話してくれたことを思い出しました。村人によれば、任地にどっしりと構える巨木は、100年以上前、奴隷が売買される市場だったそうです。この巨木がタンザニアへ続く道に点在しており、鎖でつながれた奴隷たちが、ダルエスサラーム港に連れていかれたという過去がありました。また、1994年のジェノサイドでは、この国境からタンザニアに逃れた友人も。当時、アカゲラ川には、虐殺によって命を落とした人々の遺体が流れていたそうです。

このように過去の歴史に思いをはせながら勢いよく落ちる滝の水を眺めていると、胸が痛むものです。一方、日本の皆さんの協力で架けられた橋がルワンダの人々の生活を支えている現場を見ることができ、日本とルワンダのつながりを感じられた旅でした。

次回もお楽しみに。Murabeho~! (またね!)

